

第6学年 図画工作科 学習指導案

6年1組 指導者 岡崎典子

題材 縄文土器の世界へ

1 本題材でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	他者と向き合う子どもの姿【他】	自己と向き合う子どもの姿【自】
○形や文様が美しい土器の表し方について考えている。	○土器の文様を試しながら、仲間の表し方のよさを見付けている。	○新しい表し方を見付け、自分の見方や感じ方の深まりを自覚している。

2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、第4学年「立ち上がれ！ねん土」において、粘土の感触を楽しみながら、粘土を板状にして立たせ、思い付いたものを立体に表す経験をしている。また、第6学年社会科の学習において、様々な形の縄文土器の用途を調べ、当時の人々の生活の知恵について考えることができた。このような子どもたちが、粘土の特徴や、用具についての経験や技能を総合的に生かして土器をつくる学習に取り組む。このことは、形や色などと関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うことにつながるであろう。

本題材は、粘土の特徴や、用具についての経験や技能を総合的に生かして自分の土器をつくる学習である。子どもたちは、形や文様が美しい土器をつくるためには、どのように表したらよいかを考えながら、学習に取り組んでいくであろう。その際、試行錯誤しながら見付けた表し方について交流することを大切にしたい。そうすることで、自分の見方や感じ方を深めていくことができるからである。そこで、以下のような支援を具体化する。

- 土器の造形的なよさや美しさについて話し合う際は、発言についての具体や理由を問い返す。そうすることで、造形的な特徴を捉えることができるようにする。【対】
- 土器の文様などを試しながら、表し方について交流できる場を設定する。そうすることで、仲間の表し方のよさを見付けることができるようにする。【他】
- 製作の過程をタブレットで撮影し、振り返りや次時の製作に生かすよう促す。そうすることで、自分の見方や感じ方の深まりを自覚することができるようにする。【自】

3 本題材の目標

- 粘土の特徴や、用具についての経験や技能を総合的に生かして表し方を工夫し、自分の土器をつくることができるようにする。
- 縄文土器の形や文様のよさや美しさを感じ取ったり考えたりしながら、仲間と共に鑑賞したり表現したりする喜びを味わうことができるようにする。

4 本題材における評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○土器の形や文様の造形的な特徴を理解している。 ○粘土の特徴や、用具についての経験や技能を総合的に生かし、表し方を工夫して表している。	○土器の造形的なよさや美しさについて、感じ取ったり考えたりしている。	○主体的に表現したり鑑賞したりし、自分の土器をつくる喜びを味わっている。

5 指導計画（全9時間）

- 1次 縄文土器の文様を試しながら鑑賞する（2時間）
- 2次 自分たちの土器を製作する（5時間）【本時1／5】
- 3次 焼成した土器を展示する（2時間）

6 本時案 【平成30年6月12日 14:05~14:50 図工室】

(1) ねらい 試した文様のよさや美しさについて話し合い、つくりたい土器の構想を練ることができるようにする。

(2) 学習過程 ※下線は3つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
1 試した文様について話し合う。(12分) ・用具の使い方の工夫 ・文様のよさや美しさ ・表したい文様のイメージ	・棒に巻くひもの間隔で文様が変わったよ。 ・竹は向きを変えたり連続して押ししたりすると、いろいろな文様ができるよ。 A 規則正しく跡を付けると、同じ形が繰り返されるよ。 ・規則正しく並ぶと、きれいだね。【対】 ・Bさんのように、貝を連続して押し付けて、魚の鱗みたいな文様にしたいな。【他】 ・土器の本物を見ると、360度どこから見ても文様が連続しているね。	○子どもたちが試した文様のよさや美しさについて話し合う際には、発言についての具体や理由を問い返す。そうすることで、造形的な特徴を捉えることができるようにする。【対】
つくりたい土器には、どのような文様を表そうかな。		
2 つくりたい土器を構想する。(26分) ・文様の組合せ	・上段、中段、下段で文様が違う土器があるね。文様の組合せを考えよう。 ・Bさんは、文様を組み合わせ、魚の鱗や波を表現しているのだった。【他】	○文様の組合せなどを交流しながらアイデアスケッチをかく場を設定する。そう
自分の土器の文様のイメージをまとめてみよう。		
・文様の連続性 ・つくりたい土器のイメージ	A 上段に渦巻き文様を付けたいな。下段は竹で規則正しい文様を繰り返すと、水が湧き出ているみたいだよ。【対】 B 私は「海」のイメージでまとまってきたよ。 ・縄文人みたいに自然への思いを表したよ。 ・Bさんのおかげで、自分のイメージに合った文様の組合せが考えられたよ。【他】	することで、仲間の表し方のよさを、自分の土器の構想に生かすことができるようにする。【他】
3 本時の学習を振り返る。(7分) ・つくりたい土器の構想	A 始めは何となくつくった文様だけど、規則正しく繰り返すと美しくなったよ。その文様と渦巻き文様を組み合わせると、湧き水のイメージでまとまったよ。次の時間、つくるのが楽しみだな。【自】	○自分の土器をどのように構想したかを振り返るよう促す。そうすることで、自分の見方や感じ方の深まりを自覚することができるようにする。【自】

(3) 板書計画

